

# 電気柵の設置と管理

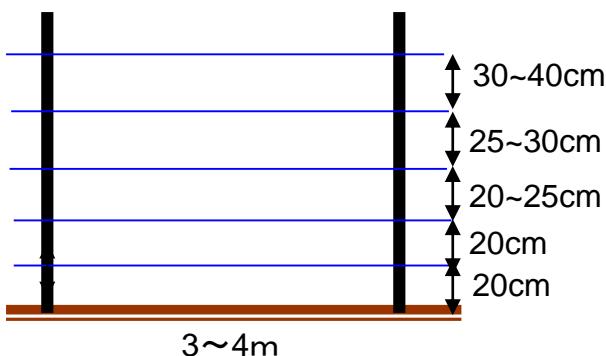
## (イノシシ・シカ用)

### イノシシ対策 電気柵

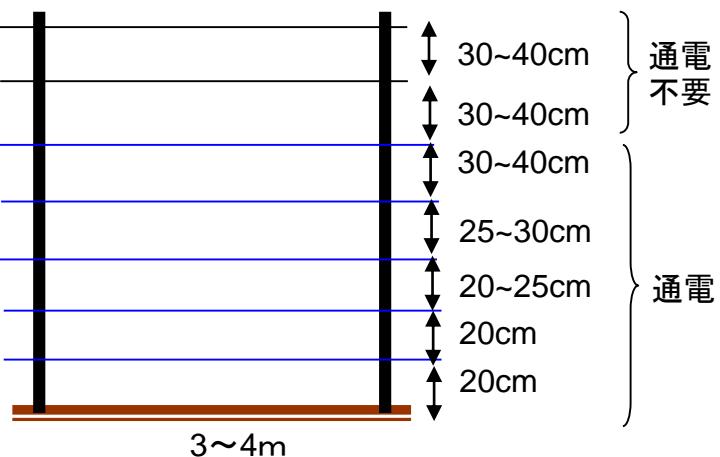


飛び込みが心配な場合は、  
3段目を追加（間隔20cm）

### シカ+イノシシ併用電気柵



5段以上が望ましい。  
状況に応じて、段数を増やす。  
(予め、2m以上の支柱を準備)

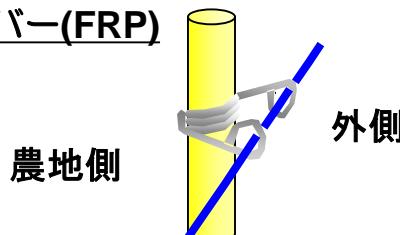


空中で柵線に触れてても電気が流れない  
ため、上部2段は通電不要。

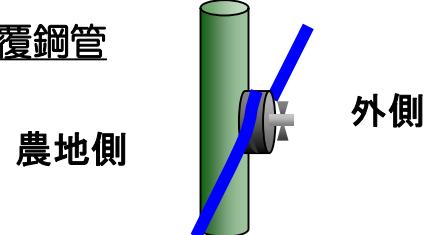
## 適切な設置 電柵線と支柱

電柵線が支柱の外側（獣側）にくるように設置する！

### グラスファイバー(FRP)

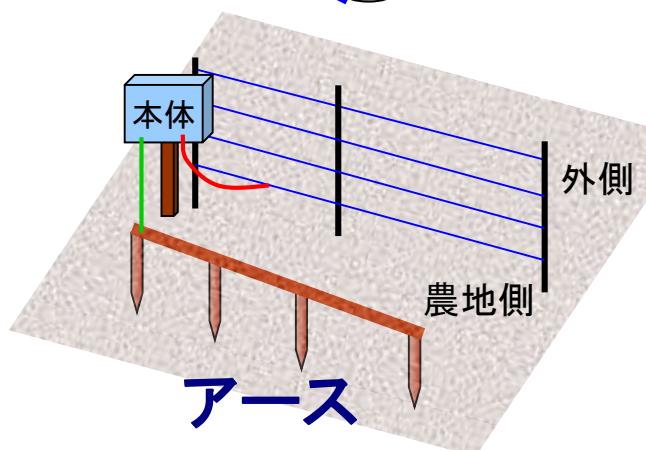


### 樹脂被覆鋼管



### アースの設置

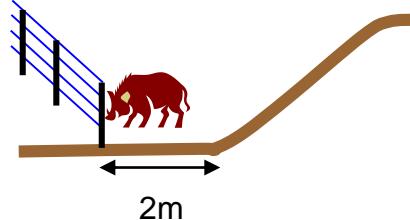
- 商品の指定に従い、必要な本数を十分な距離をとって設置する。
- できるだけ深く埋込む
- 湿った場所に設置する。



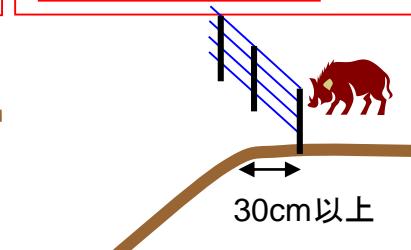
# 適切な設置 立地・地形に合わせて設置

崖・山部地形

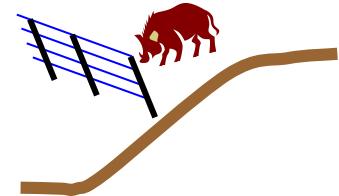
斜面下部、斜面から  
約2m以上離して設置



斜面の頂上からは  
30cm以上離して設置



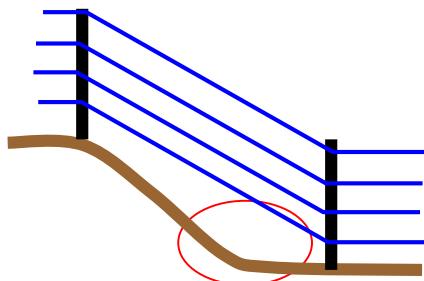
斜面に直角に設置



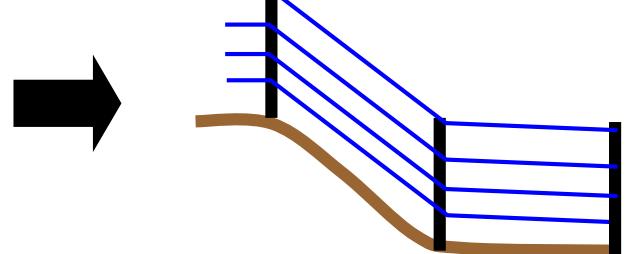
傾斜の変化点

× 悪い例

地形が変われば、スキ間ができる



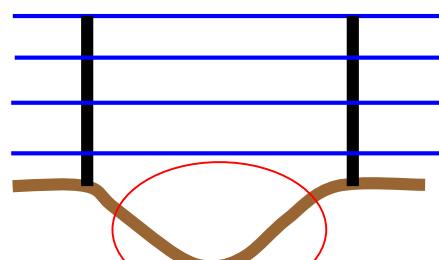
支柱を増やして、スキ間を無くす



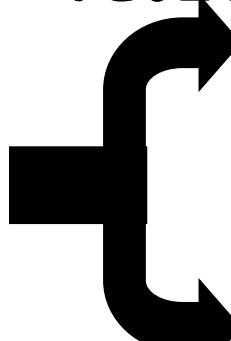
崖地地形

× 悪い例

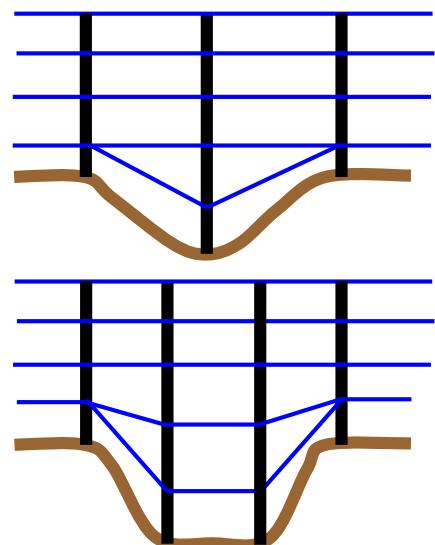
凹地や溝に、スキ間ができる



小さな凹地



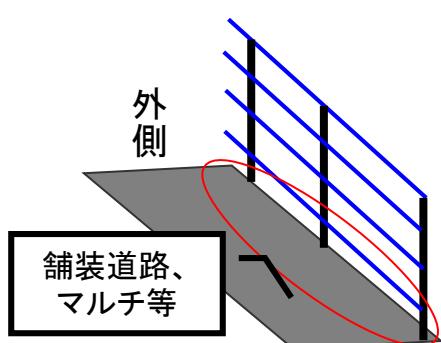
広い凹地  
小さな水路



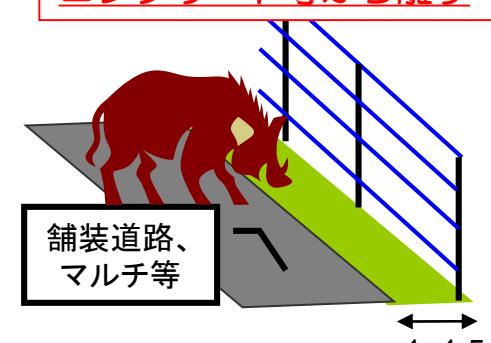
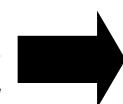
その他

× 悪い例

アスファルト、コンクリート、  
マルチは電気を通しません



マルチ、アスファルト、  
コンクリート等から離す

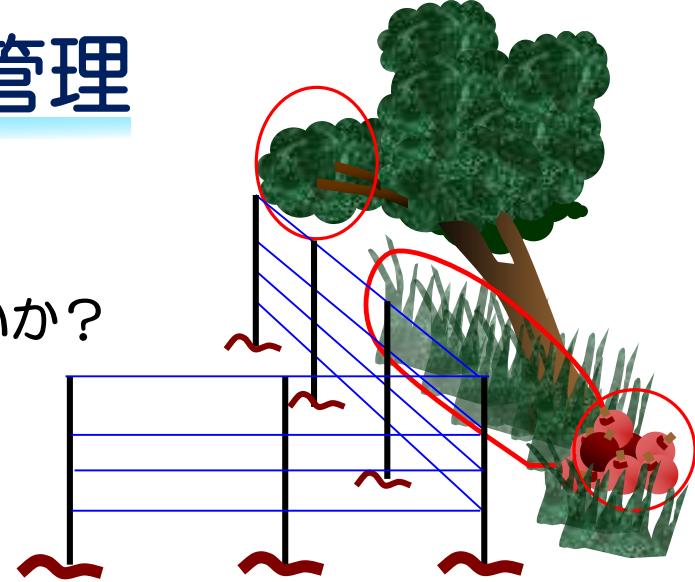


舗装道路、  
マルチ等

1~1.5m

# 周辺環境の基本的管理

- ・周囲の藪を整理してあるか？
- ・誘引物は無いか？
- ・かぶさっている樹木・枝は無いか？  
(枝や木が覆っていると侵入口になることがあります)



## 漏電を防ぐ基本的管理

- ・電圧はこまめにチェック
- ・地面と接触していないか？
- ・柵線が切れていないか？
- ・草が接触していないか？
- ・金属や石に接触していないか？
- ・水面に接触していないか？

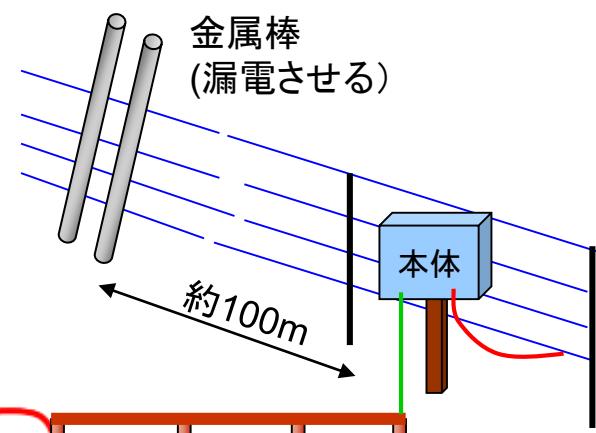
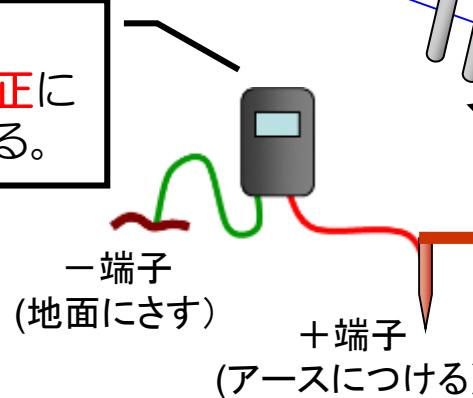


植物に接触した時の電圧低下の例  
4段、約200mの電柵で  
2箇所が接触したときの電圧低下  
約40% (7200v→4400v)

## アースの点検方法

- ①電牧機本体から、約100m離れる
- ②柵線に金属棒を立てかけ漏電させる
- ③アース棒と地面の電圧を測る

電圧の測定  
100V以下なら、適正に  
アースが機能している。



# その他の管理とヒント

\*冬期や休作期間など、長期間通電しない時は  
電柵線をかたづける！

通電しない柵に慣れると、通電後に通過される可能性が高まる

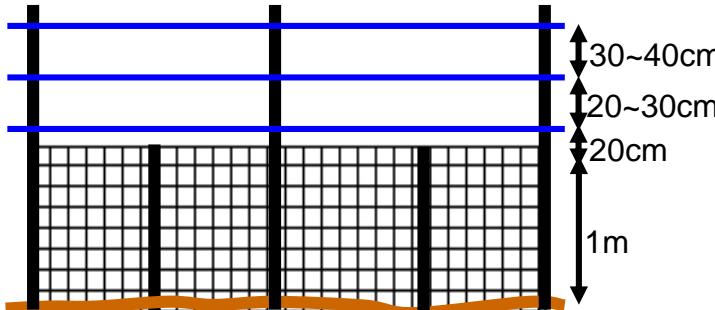
\*電気柵が効かなくなったら、  
試してみる！

- 電柵線の本数を変更する。 例えば 2本→3本
- 電柵線の間隔を狭める。 例えば 20cm→10cm
- 電柵線の色や形態を変更する  
例えば 色：青→白又は赤 形態：ヨリ線→リボン線
- 動物側に、2段又は1段の電柵を新設する。

\*電気柵から複合柵へバージョンアップ！

効かなくなったと思ったら、組み合わせて防除効果アップ

電気柵+ワイヤーメッシュ (シカ+イノシシ併用)



ワイヤーメッシュ	電気柵 (柵線間隔)
網目：10cm以下	1段目：20cm
線径：5mm程度	2段目：20~30cm
柵全高：1.8m以上	3段目：30~40cm

(※)空中では通電しないので、3段目は通電不要です。

電気柵+樹脂等のネット

(シカ・イノシシ併用)

奥行きを持たせて、防除効果の向上。  
電気柵はネットより外側(獣側)に設置する。  
(電気ショックを受けた動物がネットに絡まることを防ぐ)

